【編集後記】

◇IRATSUMEも20号を数えるに至りました．今回は，宮武頼夫先生から貴重なメッセージを頂戴したほか，会員の皆さんにも記念の原稿を執筆していただきました．虫の記事では，チョウやカミキリで記録のまとめが行われたのをはじめ，多くの報文が集まりました．ご多忙中，原稿をお寄せくださった方々にお礼を申し上げます．

これを機に，誌面のスタイルも一新し，本文を２段組にしました．雑誌としての体裁は，より整ったのではないかと思います．これまでにも何度か変更を試みようとしたことがありますが，慢性の原稿難が続く状況では，なかなか踏み切れませんでした．今回の決断は，今後も原稿が多く集まることを前提にしています．

パワーアップした20号の勢いを維持したいものです．そのエネルギー源となる，会員の皆さんのご活躍に期待します．今後も編集担当者として，充実したIRATSUMEづくりに寄与したいと考えています．（谷角）

◇この20年間，合併号の年は除いてほぼ毎年，早春からの数ヶ月はIRATSUMEの作成に追われてきました．創刊当時は手書きで苦労し，そのころは「いつかは活版印刷で！」が編集仲間の合い言葉でした．その夢はまだ果たされていませんが，果たす必要性ももはやなくなっています．コンピュータとその周辺機器の進歩はめざましいもので，IRATSUMEをワープロ出力で仕上げだした当初には，まだ活版印刷へのあこがれ（当時のプリンターはドット印刷だった）がありましたが，ページプリンターが導入され，アウトラインフォントが使えるようになった現在，ほとんど活字と見まがうような出来上がりに，やはり感動してしまいます．

今号から２段組に体裁を変更しました．確かにこれまでより編集段階での苦労は増えましたが，誌面が引き締まり，強いインパクトを受けます．もしも20年前のように，手書きでこんな誌面を作れと言われれば，ただ途方に暮れるしかなかったでしょう．

現在投稿者の中にもワープロで原稿を作られ，フロッピー入稿して下さる方が増え，編集作業がずいぶんと楽になっています．このようなコンピュータの進歩の恩恵を，誌面の美しさだけではなく，その内容の充実にも結びつけて行きたいものです．（石田）

◇このところ，チョウを採集することも少なくなり，但馬での数年間の記録を今回まとめることで，区切りをつけるつもりでいました．ところが，いろいろな人から寄せられた採集記録を読み，問題点を考えるうちに，どうしても自分の手で調べてみたいテーマがいくつも出てきて，新たに関心を持つようになってきています．たとえ不充分とは思っても，書いてみることは確実に次の進歩につながるものだということを認識しました．

但馬のこととなると，やはり他人まかせではなく，自分で調べてみたい．このような気持ちは，皆さんにもそれぞれあることでしょう．それこそが，地方同好会の活動の原点であるような気がします．今後も，そんな“地域へのこだわり”が盛り込まれたIRATSUMEになることを目指しながら，編集に加わりたいと思います．（永幡）

IRATSUME No.20
1996年５月25日発行
発行者：但馬むしの会
〒669-68 兵庫県美方郡温泉町　黒井和之方
編集者：谷角素彦・石田達也・永幡嘉之